

ゼレンスキーの反対派政治家の殺害、拉致、拷問政治

エシヤ・クリシュナスワミー（弁護士、メディア批判などの文筆活動家）著

脇浜義明訳、 The Grayzone 2022年4月17日

*脚注はすべて訳注

ウクライナ大統領ゼレンスキーは自国のロシアとの戦争を民主主義を守る戦いと言ってきた。3月16日の米国議会で見事に演出した演説で、彼は「今やわが国の運命がかかっている。わが国の国民の運命、ウクライナ人が自由でいられるかどうか、ウクライナ人が民主主義を維持できるかどうかがかかっている」と言った。

米国の企業メディアはゼレンスキーを賛美して、彼をノーベル平和賞候補にするキャンペーンを展開。米エンターテインメント界も、4月3日のグラミー賞式典で、ゼレンスキーとウクライナ軍を称える華々しい音楽を演奏した。

しかし、彼らは、ゼレンスキー政権が、批判的議員等が「ロシアの協力者」というレッテルを貼られて拉致され、拷問され、殺害されている潮流を奨励していることに目を閉じている。ウクライナ戦争開始以来、ロシアと交渉による政治的解決を主張した市長や官僚や議員が殺害された。多くは政府機関の手による殺害を噂されている。

「ロシア協力者」というレッテルを貼られて一人の市長が殺害されたのを支持して、アントン・グラシェンコ内務副大臣が「裏切り者が一人減る」と言った。

さらに、ゼレンスキーは戦時の雰囲気を利用して、野党を非合法化し、自分に敵対する政治家を逮捕させた。政治家だけではない。人権活動家、共産党員、左派活動家、批判的ジャーナリスト、「親ロシア派」とされる官僚などが多く行方不明になり、拷問され、殺害されている。

この政府公認の弾圧を実行するのは主としてウクライナ保安庁（SBU）である。CIAによって訓練された治安機関で、政府が支援するネオ・ナチ民兵組織と緊密な協力関係にある。国内に多くある地下拷問室は反対派政治家で一杯である。

戦争においても、ウクライナ軍はロシア兵捕虜に残虐行為を行い、そのサディズムを SNS で誇示している。政権幹部はこの非人道的行為も承認しているようだ。

ゼレンスキーは西側視聴者に民主主義擁護という美辞麗句をまくしたてているが、その一方で、戦争を利用して、自分の権力に逆らう政敵、批判者、反対派を血生臭く粛正している。

「戦争は、政府に批判的な意見を表明する野党メンバーを誘拐、投獄、殺害するために使われている」と、ウクライナの治安機関に殴られ迫害されている左翼活動家は今年4月にコメントしている。

私たちは皆、自由と命の危険を感じなければならない。

拷問、拉致は SBU の慣行

2013～14年の米国が支援したマイダン・クーデター後に政権の座についた新政府は、「親ロシア派」とか愛国心が不十分と見做される政治的分子をパージする全国運動を展開した。議会が「反共法」を通過させたので、左翼迫害や政治的発言の取り締まりや処罰がやり易くなった。ポスト・マイダン政権はウクライナ東部のロシア語話者を「親ロシア派」として攻撃し、その紛争を武力でなく対話によって解決しようとする主張するウクライナ人や、東部弾圧に見られる軍の非人道的行動を摘発する人権活動家や、共産党員とその関係者に、憎しみを集中させた。超国家主義的狂信者集団の暴力が政府に加わった。

SBU は、ポスト・マイダン政権の国内政治弾圧キャンペーンの主要な執行機関として機能している。国連人権高等弁務官事務所やヒューマン・ライツ・ウォッチなどは、SBU の人道に反する苛酷な虐待を非難したが、虐待は治まらなかった。

2016年の人権高等弁務官事務所は、「東部のロシア語話者を不明瞭な理由で逮捕拘留し、理由もなく拘留を延長し、消息不明状態にし、拷問し、その他非人道的虐待をすることは、SBU の慣行である・・・元ハリコフ SBU の役員は『SBU にとって法律は事実上存在しない。法に反する行為はすべて極秘にされるか、表面化しても国家的必要として正当化される』と語った」と報告した。

悪名高いネオ・ナチ C14 部隊の創設者イェウヘン・カラスは SBU との親密な関係を築いてきたことを詳しく述べ、「SBU は我々ばかりでなく、アゾフ大隊や右派セクターなどにも情報を提供してくれる」と、2017年のインタビューで誇らしげに語った。

ウクライナ政府、ロシアとの交渉による事態打開を求める市長や役人の殺害を公的に是認

ロシア侵攻以来、SBU は、ロシアから人道援助物資を受け取る決定をした地方役人や、住民が安全に脱出できる回路を設けよとロシア軍を交渉した市長などを探し出して、処罰した。

3月1日、ルハンスクのウクライナ側の支配地クレミンナ市のヴォロディミール・ストルック市長は、彼の妻によると、軍服姿の男たちに拉致された。3日に、拷問を受けた跡が明らかになった彼の死体が発見された。殺される前日に、彼は幹部職員にルハンスクの親ロシア派の役人と交渉することを指示していた。前述したように、アントン・グラシェンコ内務副大臣はこの殺害を是認し、褒めた。グラシェンコによると、ストルックは "人民裁判の法廷 "で裁かれたのだという。つまり、ロシアとの交渉による解決を望む役人や政治家に恐ろしいメッセージを発したのである。ロシアに協力したら、命はないぞというメッセージを。

3月7日、ホストメル市のユリ・プリリプコ市長が死体で発見された。彼は市民が安全に脱出できる人道回路についてロシア軍と交渉した人物で、これはネオ・ナチ国家至上主義者にとって許すことが出来ない裏切り行為になる。

3月24日、東部のクビヤンスの市長ヘンナディ・マツェホラは、SBU によって人質に取られている娘を解放してくれと、ゼレンスキー大統領に懇願するビデオを公表した。

ウクライナとロシアが休戦交渉したときのウクライナ側幹部交渉員であったデニス・キ

リエエブが、第一回交渉の後、白昼にキエフで殺害された。殺害後にメディアは彼を「国家反逆者」とする記事を書いた。ゼレンスキー大統領は「ロシアに協力する姿勢を見せた者にはそれ相応の結果が伴う」という声明を出した。これは殺害という不法行為を政府が認めるという政治を示したものである。

現在11人の市長が消息不明になっている。西側メディアはゼレンスキー政権を盲信して、行方不明市長らはロシア軍に拉致されたと報道する。それを裏付ける証拠は何もない。

ゼレンスキー、野党非合法化、政治家逮捕と戦争のデマ・プロパガンダ・キャンペーンを法的認可：

戦争勃発とともに、ゼレンスキー大統領は野党や反対者や批判者の言論を封じ込める一連の政策を実施した。

3月19日、ゼレンスキーは野党11党の活動を禁止する戒厳令を発した。左翼や社会主義者政党やNATO加盟に反対する政党である。具体的には、生活党¹、ウクライナ急進社会党、ウクライナ社会党、左翼連合²、シャリィ党³、社会主義者党、我らの党(Nashi) 4、反対派連合(Opposition Bloc) (訳注：2014年の米支援のマイダン・クーデターに反対した6政党が作った政党)、ボロディミル・サルドー連合⁵の11である。これらの左派政党はロシア侵攻に反対しているにも関わらず、「親ロシア派」として非合法にされたが、公然とファシズムとナチ主義を掲げるネオ・ナチ団体は活動禁止の対象にならなかったばかりか、国家の協力者となったのである。ゼレンスキーは「国家分裂やロシアと結託を目論む政治家の活動は成功しないだけでなく、厳しい処罰を受ける」と宣言した。

ゼレンスキーはTV局全部を「ユナイテッド・ニュース」と呼ばれる24時間放送の国家テレビに統合し、「戦争の真実を伝える」という名目で、前例のない対国民プロパガンダを行った。

4月12日、ゼレンスキーは主要政敵のビクトル・メドベチュクの逮捕を発表した。メドベチュクは二番目に大きい野党「生活党」の創設者で、事実上ロシア系住民の代表である。生活党はプーチンと関係が深いから「親ロシア派」として敵視されているが、党はロシア侵

¹ 2018年結党のEU懐疑的政党)、左翼反対派党 (訳注：トロツキーの流れを汲む政党か？

² 地域強化、民営化反対、ロシア語第二公用語化などを主張する2007年に結党された政党。

³ アナトリー・シャリィというブロガーが結党した左翼リバタリアニズム党で、米国支援のマイダン・クーデターで成立した政権を批判した。

⁴ 2015年にかつての地域主義政党を立て直して結党された。

⁵ 2020年にサルドーが結党した地域重視政党。

攻を非難した。メドベチュクは2019年3月にネオ・ナチのアゾフ大隊に自宅を襲撃されたことがある。アゾフ大隊はメドベチュク逮捕を政府に要求した。2020年8月にはアゾフ大隊は生活党のバスを襲撃し、ゴム被覆鋼弾で数人を負傷させた。2021年2月ゼレンスキー政権はメドベチュク攻撃をエスカレートさせ、彼が関与するいくつかのメディアを全部活動停止にした。まだ戦時下でもなかった頃の言論統制なのに、米務省はそれを公然と支持し、「米国はウクライナ政府がロシアの悪影響を排除する政策を支持する」と発表した。その3カ月後に政府はメドベチュクを逮捕、反逆罪で告訴した。ゼレンスキーは、政敵弾圧を「ロシアとの情報戦」として正当化した。多分、戦後か休戦の捕虜交換でウクライナはメドベチュクの身柄を使うことだろう。

ゼレンスキー政権、戦争を利用して野党政治家を拉致、投獄、殺害

2月24日のロシア侵攻以来、SBU 治安機関は国内の政治的反対勢力や批判者に対する狂暴といえる弾圧を行ってきた。特にウクライナの左派活動家は、誘拐や拷問など過酷な扱いを受けてきた。

3月3日、ドニプロ市でSBUとアゾフ大隊は、社会福祉予算削減政策に反対しメディアの右傾的プロパガンダ報道を批判する左翼組織リヴィジアと繋がる活動家たちの家庭を襲撃した。アゾフ大隊民兵が活動家女性の髪の毛をナイフで切る乱暴を行った。彼女はそれを公務員であるSBU職員に抗議すると、職員は彼女の夫のアレキサンドル・マーチュシェンコの頭に銃を突きつけ、国家主義的フレーズ「スラーヴァ・ウクライニ！」（ウクライナに栄光を）を大声で何度も唱えさせた。「彼らは私たちの顔に袋を被せ、両手を縛り、車でSBUの建物へ連行しました。そこで、耳を切り落とすぞと脅迫する尋問を受けました」と、マーチュシェンコの妻は、ドイツの左翼紙ユーゲント・ヴェルトの取材インタビューで語った。

アゾフ大隊とSBUはマーチュシェンコの血だらけの顔をSNSで流して、国民への警告とした。マーチュシェンコを「侵略戦争に加わった」という罪で起訴し、10～15年の刑を求刑された、肋骨を何本も折られたにもかかわらず保釈もなしとした。

他にも同じような罪状で収監されている左翼活動家が数十人いる。特にSBUが目をつけたのは非合法組織ウクライナ・レーニン主義共産主義青年同盟のミハイルとアレクサンドル・コノノヴィッチであった。二人は3月6日に「親ロシア・親ベラルーシ思想を広めた」という「罪状」で逮捕された。他に報道記者ヤン・タクシュールや多くの記者が国家反逆罪で逮捕・起訴された。2014年5月2日のオデッサ労働組合会館前の反マイダン抗議者に対する超民族主義者の暴徒による攻撃で父親のミハイルを焼死させた人権活動家のエレナ・ピアチェスラヴォワを逮捕した。ミハイルの娘の人権活動家ユーリ・ツカチョウも反逆罪で逮捕された。障害者権利擁護活動家オレフ・ノビコウは「分離主義者」を支援した罪で3年の刑を言い渡された。

このように投獄される人々の数は日毎に増加、とても多くて全部紹介することができな

い。一つ唾然とする例を紹介すると、総合格闘技選手のマクシム・リンドウスキーがチェン共和国でロシア選手と一緒に練習したというだけで酷い拷問を受けたことだ。彼は脚にダビデの星の入れ墨をしたユダヤ人であった。以前政府が東部の州のロシア語話者ウクライナ人を差別し軍事攻撃していることをSNSで非難したことがあったから、睨まれていたのであろう。

国外に逃亡した反対派狩りも行われている。ダン・コーエン記者の取材によると、ゼレンスキーによって非合法化されたシャリィ党のアナトリー・シャリィは、米国が支援するマイダン政権に公然と反対しており、アゾフ民兵の暴力に悩まされ、SBUの暗殺対象になっていることを知って、外国へ逃れた。その彼のもとへ友人のイーホルから「会いたい」というEメールが届いた。後でわかったが、イーホルはSBUに銃を突きつけられてEメールを送ったのであった。

ロシアに共鳴しているとされるウクライナ人議員の暗殺を支持したアントン・グラシェンコ内務副大臣が政府の気に入らない人物をリスト・アップしたミトロヴォレッツ・ブラック・リスト⁶には、シャリィの名も載っていた。リストに載ったジャーナリストや社会運動家の何人かがすでに殺害されている。著名なコラムニストのオレシ・ブジナのその一人である。

一般国民も、政府に逆らえば、迫害対象になる。顔を緑色に塗られ、全裸で電信柱に縛られている見せしめの懲罰の映像が多数SNSで流れている。懲罰行為を行ったのは戦時中の法と秩序の執行を任された国防義勇民兵団で、「親ロシア派」ウクライナ人、被差別民ジブシー、飢えから泥棒行為を行った人々まで、あらゆる人が対象とされた。

拷問と暗殺をSBUに訓練したのはCIA

2014年マイダン・クーデターの後ロシアへ亡命した元SBU幹部のヴァッシリー・プロゾロフは、クーデター後のSBUが政敵やロシア・シンパと見られる国民を倒すのに、CIAから直接指導を受けて、拷問を使うようになったと語った。「CIAエージェントは秘密のアパートや郊外に住んで、そこからSBUの本部へ頻繁にやってきて、特別会議や秘密作戦の企画を指導した」と語った。その模様をロシアの国内向けメディア「RIA ノーボスチ」が収録している。

ダン・コーエン記者はウクライナのビジネスマンのイーホルを取材した。イーホルはロシアの会社と縁が深いとして逮捕され、3月にキエフのSBU本部にある悪名高い牢獄に収容された。彼は、牢獄の中で、ロシア兵捕虜が、SBU士官の指揮のもとで国防義勇民兵によって鉄パイプで殴打されている音を聞いた。ウクライナ国歌をかけ、そのリズムに合わせた殴打で、捕虜が「私はプーチンを嫌悪する」と言うまで続いた、と語った。

今度はイーホルの拷問の番となった。「彼らはライターで針を熱して、それを私の爪の間

⁶ ミトロヴォレッツというウェブで公開したブラックリストで、国連人権高等弁務官事務所が人権侵害にあたるので調査せよとウクライナ政府に勧告した。

に差し込んだ。ナイロン袋で顔を包んで窒息寸前に追い込まれたり、カラシニコフ銃を頭に突き付けられ、彼らの気に入るような答えを引き出そうとした。」

クーデター後の SBU の最初の長となったヴァレンティーン・ナリヴァイチェンコはブッシュ時代に在米ウクライナ大使館の総領事を務め、そのときに CIA にリクルートされた人物である、とクーデター前にヤヌコヴィッチ政権下で SBU の長だったアレキサンデル・ヤキメンコが話した。

2021年、ゼレンスキーは悪名高い諜報員アレクサンデル・ポクラットを SBU のスパイ防止活動部隊長に任命した。ポクラットは「絞殺魔」という異名を持つ人物で、大統領の政敵を国家反逆者に仕立て上げるために拷問や様々な残酷な手を使うという評判があった。

今年4月、SBU は、ドニプロ市でロシア・シンパとされる人々を棍棒で殴打する映像ビデオで流し、その残虐性が鮮明になった。

「俺たちはロシア兵を生かして捕虜なんかにはしない」と戦争犯罪を自慢

西側メディアはロシア軍の戦争犯罪ばかりを報道するが、ウクライナ軍や西側にある親ウクライナ SNS アカウントは、ロシア兵捕虜の公開処刑や拷問などの戦争犯罪を誇らしげにネット公開している。

3月、米国の白人至上主義の「ホワイト・ライヴズ・マター」と称するテレグラム・チャンネルは、ウクライナ兵がロシア兵捕虜の故郷にいる婚約者に「お前の未来の夫の睾丸を切り取って性的不能にしてやった」と、捕虜の携帯電話を使って婚約者を揶揄している有様を、自慢げにビデオで流した。ウクライナ兵が死んだロシア兵の携帯を使ってロシア兵の友人や家族を揶揄うことは慣習になっているようだ。実際、ウクライナ政府は米国のハイテク企業クリアビューAI社の侵襲的顔認定技術を購入し、それを使ってロシア兵戦死者の身元を探し出し、その親族を SNS を通じて侮辱する戦術を、兵隊にやらせている。

4月、fckrussia2022 と呼ばれる親ウクライナ・テレグラム・チャンネルは、片方の目を包帯で覆ったロシア兵の映像を流し、拷問で目をくり抜いて「片目の豚にしてやった」という嘲笑いのコメントを付けた。それどころか、実際に捕虜の目をくり抜いてから殺害する映像が流され、「あの世で片目でナチを探すがいい」という嘲笑的コメントをつけたものもあった。

おなじく4月、ウクライナ兵たちがハリコフ市外でロシア兵捕虜の脚に銃弾を撃ち込む虐待映像が SNS で流された。さらに、ウクライナ政府と米政府から支援されているジョージア（グルジア）人義勇兵部隊が流したビデオは、キエフ近くの村で負傷ロシア兵捕虜を公開処刑する風景であった。上官のお墨付きを得たことで、これらの兵士は勇気づけられたのだろう。義勇兵部隊のマルーラ・マルラシュヴィル隊長は、この戦争犯罪を自慢して、「我々は奴らの手足を縛って処刑する。私はジョージア義勇兵部隊の代表として宣言するが、我々はロシア兵を捕虜なんかにはして、生かしておかない」と語った。

同じように、ウクライナ軍医療班の長ヘンナジー・ドルーゼンコは、ゼレンスキーがウ

クライナテレビ局を全部統合して作った国家統一テレビ局「ウクライナ24」のインタビューの中で、「私はロシア兵捕虜を全部去勢せよという命令をだした。奴らは人間以下でありゴキブリよりひどい連中だから」と語っていた。

アゾフ大隊が拷問死させた女性をウクライナ政府はロシア軍の犠牲者と嘘の発表

西側会社メディアはロシア軍の人権侵害を探して報道するのに懸命で、ウクライナ政府が捏造や偽情報を利用するルール無視の「総力戦」プロパガンダを行っていることに目を閉じている。

今年4月、「ウクライナ24」—先日の番組でゲスト出演者がロシア人児童のジェノサイドを公然と主張していた—は腹にカギ十字の焼き印を押された女性の死体の映像を流した。これは、3月29日にロシア軍がキエフ州のホスメトリを撤退した後に見つかった死体で、ロシア軍の仕業だと報じた。ロシア・ヴァシレンコ議員とゼレンスキーの大統領補佐官のオレクシー・アレストヴィッチがSNSで流したものをそのまま報道したのだ。ところが、放送から8時間後、偽物を掲載した事実を突きつけられ、アレストヴィッチは慌ててSNSを削除した。

実は、これはドネツク州で取材活動をした米国人記者パトリック・ランカスターが、マリウポリの学校の地下室を戦闘基地にしていたアゾフ大隊が拷問死させた女性の遺体をフィルムに納めていたのを、アレストヴィッチが引き出してロシア軍の仕業だとしたのがバレたので、慌てて削除したのであった。

NATO 諸国から兵器がどんどんウクライナに入り、ゼレンスキーの徹底抗戦指令が続く限り、戦争がエスカレートし、この種の残虐行為が増えるだろう。4月にブチャ市を訪れたゼレンスキー自身が「文明人的な事態打開方法がないなら、わが国民のことだ、非文明人的な方法をやるだろう」と言ったではないか。